



YMCA News

8/9

2025年9月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒321-0904
宇都宮市陽東4-18-30
TEL:028-624-2546
FAX:028-624-2489
<https://www.tochigiymca.org>
発行人/塩澤 達俊
編集人/公益財団法人とちぎYMCA

かけがえのない仲間たちと共に

高校生ボランティアグループつぼみ
大垣さくら

私が初めてYMCAのボランティアに参加したのは高校一年生の夏でした。もともと子供と関わるのが好きで、YMCAのボランティアではたくさん子供と関わる事が出来ると知り、高校生ボランティアグループつぼみに入りました。その後、つぼみ食堂、リーダートレーニング、ICEPなど、様々な活動に参加させていただきました。そして、YMCAのリーダー歴2年となったこの夏、7泊8日で行われたフィリピンキャンプに参加しました。

私は海外にも行ったことがなく、このフィリピンキャンプに参加するのは正直とても不安でした。しかし、実際に行ってみるとフィリピンの人はとてもフレンドリーで優しく、言語こそ違ったものの、互いに心で通じ合いこの先一生忘れることの無い素晴らしい思い出を作ることが出来ました。私がフィリピンキャンプを通して特に印象に残っている活動が3つあります。

1つ目はスラム街での食料配布です。初めスラム街に行くのはとても不安が大きかったのですが、フィリピンのキャンパーの方々が優しく一緒に行動してくれて安全に食料を必要としている方々に食べ物配布することが出来ました。

私は毎月1回高校生ボランティアグループつぼみで子ども食堂を行っているのですが、フィリピンのスラム街で食糧配布を行ってから、日本とフィリピンの子ども食堂の違いに気づき、これから活かしていこうと思いました。

2つ目はフィリピンと日本のそれぞれの国についてのプレゼンテーションです。私は日本の相対的貧困と絶対的貧困について英語でパワーポイントを作り、プレゼンテーションをしました。フィリピンの方々の前で英語でプレゼンテーションをするのはとても緊張したけれど、しっかり練習をして発表することが出来たので良かったです。フィリピンの方々のプレゼンテーションも聞いて、それぞれの国の課題とどうすれば改善できるのかについてみんなでしっかりと考えることが出来たので本当に良かったです。

3つ目はフィリピンの病院を訪れて、ハンセン病について学んだことです。今までハンセン病については日本でも学んだことがありましたが、あまり詳しくは知りませんでした。実際に病院に行き、ハンセン病について学んだことで、ハンセン病患者さんへの理解がより深まり、ハンセン病患者さんへの差別はハンセン病について詳しく知らないことから生まれてしまうことが分かったの

で、フィリピンの病院で学んだハンセン病について身近な人に話していき、少しでも患者さんへの差別を無くしていきたいと強く思いました。

フィリピンの方々は本当にフレンドリーで初めてであった私たちに対しても最大のおもてなしをして下さいました。私は元々人前に出るのも人に自分の意見を話すのも苦手でしたが、このキャンプで自分の殻を破って自己を表現したことで、自分の苦手だった人前に出ること、自分の意見を話すことが出来たので本当にいい体験ができました。日本に帰ってきた今でもフィリピンで一緒に活動した方々はかけがえのない友達であり、度々電話することもあります。

このキャンプで新しい自分、新しい仲間と出会えたことは一生忘れないです。YMCAの活動では今まで体験すること出来なかった体験をすることを通して、新しい自分と出会い、これからの人生をより豊かにすることができると強く感じています。これからもYMCAの活動に積極的に参加し、他の人を幸せにできる素敵な人に成長していきたいです。

最後になりますが、YMCAの活動に携わっていただいている方々並びに一緒に活動してくれるリーダーのみなさん本当にありがとうございます。

とちぎYMCAの使命

～みつかる。つながる。よくなっていく。～

2025年度とちぎYMCA年間聖句

《善きサマリア人》の喩え

新約聖書 ルカによる福音書 第10章25節～37節



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

みそづくり！



青原味噌が400周年ということで、「400人でみそを仕込もう！」プロジェクトに参加させていただきました。素手で塩や大豆を潰したり混ぜたりと子どもたちは楽しそうに行っていました。味見をすると「しょっぱい！」「納豆みたい！」「美味しい！」と素直な感想と表情に思わず笑ってしまいました。みんなで仕込んだみそは、2学期のお料理会で食べようと思います。食育に繋がる味噌作り、貴重な体験を400周年という奇跡的なタイミングで参加させていただいたことに感謝です。みんなのおみそ、美味しくな～れ！

ようとう保育園

つばめ組（2歳児） 夏のあそびの様子



待ちに待ったプールあそびが始まりました。「ママにかっってもらったの」「ここにリボンついているよ」と嬉しそうにプールバックから出した水着を身に着け、「つめたい！」「きもちいい～」と言いながらプールに入っています。最初は緊張気味だった子ども回数を重ねるうちに水に慣れ、ジョウロや水あそび用のペットボトルを使って保育士や友だちと水あそびを楽しんでいます。お水が大好きで足をバタバタさせてダイナミックにあそぶ子どももおり、一人ひとりがプールのなかで好きなあそびを思い思いに楽しんでいます。暑さの厳しい日には戸外での活動短縮の為、タライでの水あそびや色水、水あそびなどをタープメントの下で涼みながら活動内容を工夫しています。熱中症や安全には十分配慮しながら、引き続き夏のあそびを楽しんでいきたいと思っています。

また、お祭りの屋台をイメージした制作あそびでは『チョコバナナ』『金魚すくい』『かき氷』『ちょうちん』を作りました。「〇〇ちゃんはピンクがいい」と好きな色の絵の具を塗ったり、「もっとこっちにもシールはる」と自由にシールを貼ったりしてそれぞれ個性のある可愛らしい作品が保育室の壁を彩っています。「みて！これ〇〇くんがつくったの！」とお迎えに来た保護者の方に嬉しそうな笑顔で伝える姿に成長を感じます。

こどもの家 瑞穂野北小 めだかつ子クラブ

夏休みの様子



夏休みに入ると、猛暑日が続く「今日は外遊びできる？」と子どもたちから毎日お決まりの言葉を言われました。午前中は外が暑い為体育館で5、6年生が企画したゲームや遊びをして過ごしました。午後は気温も下がりが校庭に出ることができ、プランコやジャングルジム、虫取りなどを楽しんでいました。先日は、セミの抜け殻を大量に見つけたり、大量のアマガエルを捕まえてビニール袋に入れたりと支援員を驚かせていました。

7月22日から25日と8月5、7、8日の間、YMCAの高校生ボランティアスクールの2名が来所し、お兄さんお姉さん先生と体育館でドッチボールや中線踏み、外遊びでは鬼ごっこなどをして楽しみました。お別れの日にはそれぞれがお手紙を渡していました。そのような姿を見ると、「心の優しい子たちだなあ」と感じました。

また、室内で過ごす日が多かった今年の夏は、うちわ制作を行いました。白いうちわに色付けや切り紙、アイドル推しのキラキラなどで飾り、カラフルで個性豊かなうちわが出来上がりました。

ひがしやま アトムクラブ

夏休み！



ひがしやまアトムクラブでは、7月22日から暑くて長い夏休みが始まりました。長い一日をどのように過ごすか？夏休みを迎える前から色々と考え準備をしました。校庭にも遊びに行けない状況の中、少しでも子ども達に楽しんでもらえたらと、週に一度の制作活動とビニールプールを準備しました。

制作活動は、スライム・うちわ・紙飛行機・粘土・プラバン。それぞれ得意なスタッフが指導をしました。特にスライム作りは大人気で、理想の硬さになるよう一生懸命に練り、友達同士で協力し合う姿も見られ、スライムの感触を楽しみ、満足そうに遊んでいる姿が印象的でした。高学年が制作したプラバンは夏祭りでも子ども達が販売する予定です。

プールは猛暑のため午前中のみでしたが、子どもたちはとても喜んでいました。

それから猛暑のため中止になった遠足の代わりにプロジェクターでドラえもん映画を観ました。白くて大きい壁に映し出された映像は迫力があり、感動の場面に涙を流している子もいました。

夏休み後半もお祭りや制作活動、長い一日ならではの子ども達との関わりを楽しみたいと思います。

デイホーム きよはら

今月のおでかけ



6月は『かましん』『しまむら』へ外出しました。買い物に出かけたくてもなかなか買い物にいけない利用者様。たくさん買う方、お目当てのものをかう方、はたまたウインドウショッピングの方といろいろでした。梅を買った利用者様は「梅ソーダにしたり梅ゼリーにしたり梅酒にして毎日飲んでるよ。」と嬉しそうに話されています。

7月はミステリーツアーと題して涼しいところにお出かけ、8月は納涼祭、9月は敬老祭と楽しい企画が満載です。

宇都宮市 まちづくりセンター まちびあ

八坂神社天王祭に ボランティア派遣！



2025年7月20日(日)「高校生ボランティアスクール(通称：ボラスク)」の一環として、「八坂神社天王祭」に高校生18名とまちびあスタッフ3名が参加しました。

参加は、以前の運営団体であるまちづくり工房さんの時代から数えて今回で6回目となり、神輿担ぎや写真撮影などを行いました。地域の伝統行事を支える活動を通じて、ボランティアの意義や地域との関わりを学ぶ機会となりました。当日は気温30度を超える暑さの中、まちびあに集合後、神社へ移動。神輿を担ぐ学生は法被に着替え、おそろいのお守りを首にかけて出番を待ちました。熱中症などの心配もありましたが、全員が無事に戻り、充実した表情を浮かべていたのが印象的でした。

参加者からは「参加してよかった」「来年もやりたい」といった前向きな声が多く寄せられ、地域活動を通して新たな気付きや学びを得る貴重な体験となったようです。受け入れていただいた八坂神社さんや自治会の皆さまに感謝し、今後も関わっていききたいと思います。



2025年6月29日(日)、第20回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2025が、快晴の夏空のもと盛大に開催することができました。

本イベントは、障がいのある子どもたちへの支援を目的としたチャリティー活動であり、多くの方々の温かいご協力のもと、無事に開催・終了することができました。

第20回とちぎYMCA インターナショナルチャリティーラン2025 開催報告とお礼

当日は、子どもから大人まで、障がいのある方もない方も、互いに支え合い、励まし合いながら、ともに汗を流し、笑顔があふれる一日となりました。まさに「みんなでひとつになる」ことを実感できた時間でした。この場をお借りして、参加してくださったランナーの皆様、代走ボランティアの皆様、賛助企業の皆様、会場運営や応援にあたってくださったボランティア、ユースボランティアの皆様、そしてYMCA各部スタッフの皆様へ心より感謝申し上げます。

このチャリティーランを通して、障がいのある子どもたちがより豊かに、地域の中で笑顔で過ごしていける社会の実現を目指し、今後も活

動を続けてまいります。引き続き、皆様のあたたかいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



- ◎ 参加者内訳 (合計511名)
- ・スタンブラリー参加者: 64名
 - ・ファミリーラン参加者: 46名
 - ・たすきリレー参加チーム: 26組 (約130名)
 - ・ボランティア参加者: 115名
 - ・スタッフ: 85名
 - ・その他来場者数 (スタンブラリー含む): 135名

ミャンマー募金 9月末まで

3月28日に発生したミャンマーの大地震への緊急支援募金には多くの方からご支援をいただき誠に有難うございます。

皆さまからの募金は、2025年4月1日から8月1日までの期間に83,000円集まっています。しかし、現地の甚大な被害状況を鑑み、募金受付が9月末まで延期となっています。現地のマンダレーYMCA、ネビドーYMCAなどミャンマーYMCAの進めている支援活動への引き続きのご協力をよろしくお願いします。

【募金方法】

◆各YMCA受付にて◆郵便振替

名称: 公益財団法人とちぎYMCA募金口

口座番号: 00340-8-40685

※通信欄に「ミャンマー地震」と記載ください

◆クレジットカードはQRコードから →



とちぎYMCAでの募金額 (現在)

83,000円

(2025年4月1日～8月1日)

フードドライブに 参加しよう



お中元お歳暮などでいただいた食品で、ご家庭に眠っているものはありませんか? そのような食品を必要な方へ届けるのがフードドライブです。コロナ以降、支援が必要な方々の増加に比して、フードバンクへ集まってくる食品の数が大幅に減少しています。

- ①未開封で賞味期限が2カ月以上あり、
- ②常温保存が可能で食品表示のあるものをご寄付ください。

フードバンク宇都宮によると、昨今の物価上昇の影響もあり特に主食となる食品とそのお供が足りない、とのこと。

さくらんぼ幼稚園では、9月1日(月)から10月3日(金)までフードドライブを行っています。皆さんの参加をお待ちしております。また、ようとう保育園・YMCA EASTもフードドライブ活動をしてありますが、日程は各施設までお問い合わせください。

And more.

YMCA EASTでは「もったいないを減らす」ことを拠点としての目標に掲げています。その一つに「参考書・問題集の回収譲渡」活動があります。この活動は今年で3年目を迎え、有難いことに皆さまからご寄付いただく参考書・問題集の数は年々増加し、この7月は1,000冊を超えたところです。宇都宮市立東図書館での譲渡率は平均約65%となっており、古紙として別の紙に再利用されるのではなく、必要な方のために参考書として本来の役割を果たしています。なお、譲渡会の様子は、7月27日の下野新聞に掲載されました。

体験と学びを。
安心と楽しさを。

学校の外の文化祭

—不登校の子どもたちとその家庭を応援したい。—

6月22日に不登校支援の一環で、まちづくりセンターと青少年活動センターが主催で、「学校の外の文化祭」を開催しました。「学校に行かない、行けない子どもたちにも、文化祭のような楽しい1日と体験を提供したい。」そんな思いから「安心」と「自由」をテーマに子どもも大人もほっとできる、楽しいプログラムを企画しました。体験ブースはさまざまな、セルフネイル、ギター教室、プログラミング、陶芸、盛岡YMCAの人権かるた、サッカー教室など、子どもたちのちょっとやってみたいを応援するブースを用意し、当日は参加者119名、ボランティア41名、職員14名の総勢174名が集いました。

企画に至った経緯は2024年10月31日に文部科学省より出された「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」から、著しく不登校児童生徒が増加している

ことが分かり、社会課題として取り上げられたことにあります。この報告からワイズメンズクラブとYMCAが協働して、「不登校連続講座: 不登校が問う日本教育」を開催しました。(実施日: 2024年11月16日、12月21日、2月8日) この講座を通して、数字だけでは見えてこない不登校の現状を目の当たりにしました。

その後、YMCA、ワイズメンズクラブ、NPO法人キーデザイン、また講座参加者と共にミーティングを重ね、学校に行かない、行けない児童、生徒、またその家庭に対してサポートできるネットワークの構築と、体験の機会提供が必要なのではないかと共通の認識が生まれました。

今回は100名以上の参加者が集いましたが、たとえ参加者が1名であっても、誰一人取り残さない社会作りには必要なアクションであったと感じているため、来年度も参加者数に関わらず実施した

と考えています。

今回は不登校の子どもたち、またその保護者に対して体験機会の提供と、今後につながるサードプレイスの案内、支援者ネットワークの拡大をすることができました。ご協力いただきました団体や企業、ボランティアの皆さま、本当にありがとうございました。



情報リテラシー講座

私たちの周りには、様々な情報があります。新聞・雑誌の文字情報、写真やイラスト、テレビやラジオ、SNS、人の話、。

あなたはこれまで知りたいと思っていた情報の中で、「あれ？本当かな？」とか「そんなことあるのかな？」と疑問を持ったことはありませんか？

その情報の背景や経緯がわからず切り取られた一部だけで物事を判断するのは誤解を生む原因かもしれません。そこで、大切なのが情報を読み解く力です。熊倉さんのインドネシアでの生活体験から見てきた情報の見極め、読み解き方を教えてもらい、目に見えたこととそこに隠された姿をよんでみましょう。

右上の写真は、違う国の棚田（ライステラス）の写真です。それぞれの国はどこか当ててみてください。



【日時】2025年9月13日（土）13:30～15:30

【場所】YMCAさくらんぼ幼稚園

（宇都宮市松原2-7-42 清住通り）駐車場有

【ファシリテーター】熊倉 百合子氏

（栃木県青年国際交流機構 元会長、元JICA青年海外協力隊）

【対象】小学校4年～成人

小学校低学年は保護者様同伴。小さなお子様連れの方も参加OK

【参加費】無料

【問合せ】とちぎYMCA 電話：028-624-2546

Apply here!



9月10日締め切り

塩澤総主事の、



なにそれなにそれ

#多文化共生 #包摂
#リスクの社会化 #自己責任

日常のなかにも根本的な問いはあるものです。例えば「あの国はどこへ向かおうとしているのか？」「あの組織の目指すところはどこにあるのか？」「あのひとは何をモットーに生きているのだろうか？」などの問いがそれです。そのようなとき、わたしたちはそこにあ

るVision（未来像、使命性、価値など）に目を向けることになります。

また、為政者や組織などが自らの想いや考え方を明快に示そうとするときにVision（考え方の方向性、行動の判断基準、外部へのメッセージなど）を掲げることは定石です。世界のYMCAが進めるVision2030にもそうした意味合いがあります。

ところで世界にはいろいろな価値観や考え方があるものなのでVisionにも多様性があるのが当然です。わたしは多様性と包摂性を支持するほうなので、様々な考え方がどうしがカラフルさを保って共生に向けた議論を交わし続けてほしいと願っています。

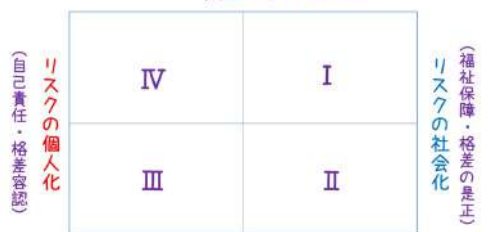
ですから新しい事象や異なる考え方に出会ったときは、あれはダメだ、これはキライだと決めてしまう前に、まずは持論もふくめて《思考の見取り図》の上に様々な考え方を配置して相対化した上で判断をします。

この見取り図（マトリクス）のオリジナルはある政治学者のものです。縦軸に『価値』を置き『リベラル（自由・寛容）⇔権威主義（パターナリズム）』で展開し、横軸に『変化への態度』を置き『革新的⇔保守的』で展開しています。

オリジナルはどちらかというとリベラル保守に組する論者の政治思想的視座があるのですが、わたしは福祉施策や社会思想の理解に用いたい観点から、縦軸に『共生』を置き『共生（みんな）⇔排外（おなじような人たちだけで）』、横軸に『人生リスクへの対応』を置き『社会化（福祉・保障）⇔個人化（自己責任）』で展開して思考の整理に使っています。

さて、YMCAの理念は、あの国の指導者の頭の中は、あの団体のマニフェストは、あなたのお考えは、どこに位置するでしょうか？

共生（多文化共生）



排外（分断・差別）

（自己責任・格差格闘）
リスクの個人化

（福祉保障・格差の是正）
リスクの社会化



とちぎYMCA
Sustaining member

維持会員
法人会員

とちぎYMCA 維持会員・法人会員

2025.4-6
MONTH

THANK YOU
FOR
ACTION.

現在の《とちぎYMCA》は、社会の資金で賄われる制度事業の“外側”に新しい活動を拡げております。

官と民間の活動をあわせもつYMCAですが、みなさまからの貴重な寄付によって、フレキシブルで、創造的で、ボランティアな部分を表現する最もYMCAらしい活動を継続することができます。みなさまのお支えによって続けられますことに感謝申し上げます。

【新規申込み方法】

- ☐ お電話（028-624-2546）資料をお送りいたします。
- ☐ ホームページより（QRコード）
- ☐ 各YMCA 事務所にて

【継続申し込み】

- 維持会員費をお支払いください。
- ☐ ホームページより（QRコード）
- ☐ 各YMCA 事務所にて



〈敬称略・順不同〉

日下 航介	松本 法判	福田 能文	岩村建設(株)
高村 博	丸山 孝	吉田 玄	上野 順一郎
上野 すみ子	藤田 哲夫	金田 敏雄	久保 孝弘
中川 哲夫	大浦 智子	藤生 容子	井口 美代子
福本 光夫	並木 信一	佐藤防災サービス(株)	
江口 健司	伊澤 良則	(有)高橋平版社	伊藤 貴子
横嶋 依里子	山口 俊一	大久保 知宏	大橋 敏雄
谷津 行男	十河 弘	本多 啓夫	阿久津 哲夫
中村 俊幸	阿久津 ユリ子		
増山公認会計士事務所	増山雄貴		